

Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

右から黒木瞳、中村吉右衛門、橋爪功。出演は他に上川隆也、牧瀬里穂、伊原剛志、田辺誠一、純名りさ、高橋和也、金田明夫、細山田隆人、榎芽衣子、石橋蓮司、中村梅三、笠江敏三、榎木孝明ら。2003年1月2日、午後2時よりテレビ東京系にて一挙放映

『忠臣蔵』 平成15年1月2日(木) 午後2時 制作発表記



テレビ東京の新春ワイド時代劇は中村吉右衛門主演「忠臣蔵」決断の時(03年1月2日午後2時放映)。吉右衛門は過去、舞台では忠臣蔵を演じていたが映像は今回が初体験。大石役の吉右衛門、りく役の黒木瞳、吉良役の橋爪功が抱負を次のように語った。

「内蔵助の使命は吉良を倒す事。今回、橋爪功さんという素晴らしい吉良に出会った。内蔵助が思いを込めたのも、りくの内助の功なのですが、台本では手を握る事も抱く事も、キスするシーンもありませんでした。更に撮影現場では男ばかりで寂しく、黒木さんがお見えになった時はホッとしました。そこで監督にお願いし、そっと肩を抱くシーンを付け加えていただき、やっとなぐさを下げました(笑)。(中村吉右衛門)」

「田舎の両親も上京すると泉岳寺に行きたいという位、有名な話を演じるプレッシャーを感じています。私はりくのような良妻賢母ではないので、主人が放逐を見たら、きつと泣いて喜んでくれると思います。来年は奥さんになりたい女優NO.1と呼ばれる事を目指して、心してりくを演じたいと思います」(黒木瞳)

「まさか自分が吉良を演じる年齢になろうとは、といった感じです。時代劇については、舞台をやる度に髪が抜けるのでお断りしてきましたが、やらなくても髪が薄くなってきたので、もういいかなと思って今回のお話しをお受けしました(笑)。(橋爪功)」



中村吉右衛門・映像で初挑戦 「忠臣蔵」決断の時

主題歌は井上陽水 「たそがれ清兵衛」

「男はつらいよ」シリーズの巨匠・山田洋次監督が、文庫本総発行部数2300万部を超える時代小説の第一人者・藤沢周平の短編「たそがれ清兵衛」「竹光始末」「祝い人助八」を原作に、松竹京都映画で撮り上げたのが「たそがれ清兵衛」だ。出演は真田広之、宮沢りえ、岸惠子、小林桂樹、丹波哲郎、井上陽水が藤子不二雄Aの戦時中少年期を描いた「少年時代」(90年)以来12年振り二度目の映画主題歌を担当。「決められたリズム」を歌うのも話題。初めての時代劇に山田監督は「制約だらけの世界だった。という事は映像には不向きな世界になるのだが、一つだけ現代になじみやすい魅力がある。それは力である。主君の命令とあればいづれも命を捨てなければならぬという不気味さである」と時代劇における刀の魅力を語り、徹底的に「リアルな殺陣」を追及。そのため殺陣師に剣術師範を招き入れ、一週間に上を費やして殺陣シーンの撮影を行った。

大林宣彦監督も絶賛! 大映「怪猫」シリーズ 一挙DVD化!

「時をかける少女」など児童三部作で有名な大林宣彦監督をして「怖いね!怖い!怖い!」そしてこの怖さ、今のデジタル映像のきれいなフランクシーを見馴れた目には、さらに怖い!これは手作りの恐怖、習習と工夫と、人間の汗が生み出した「怪猫」シリーズ(怪猫佐屋屋敷「怪猫有馬御殿」「怪猫岡崎騒動」「怪猫遠藤が辻」「怪猫五十三次」「怪猫夜泣き道」)「怪猫現いの燈」「怪猫怪猫伝」が一挙DVD化、発売された。大林監督がどれ程このシリーズを愛しているかは、今シリーズでだけ猫女優として名を残す入江たか子の娘・入江若葉が大林作品の欠かさない顔である事でも証明済み。大林監督はテレビの2時間ドラマでも怪猫シリーズにオマージュを捧げた「怪猫伝説」を入江たか子・若葉親子で演出。若き日の勝新太郎が白塗り二枚目でも出演しているのも話題だ。



若き日の勝新太郎が白塗りの二枚目で戦術と剣術を披露。全8作のDVDはビクターエンタテインメントより発売中



賢治の清兵衛(真田広之)は藩士の後継者対派の一人を討つという藩命を受け、出立の瞬間、朋江(宮沢りえ)に想いを告白する。11月2日に全国松竹系で公開

韓国・釜山にロケ敢行! インディーズ超大作「MY DO」!

※同作品について、応募者の方から抽選で5名様に招待券をプレゼント。宛て先・〒547-0032 大阪市平野区流町12-11-105 「インディーズ向上委員会【MyDo!】」招待券係



大阪の映画文化発展を目的に設立されたNPO法人・アートボリス大阪協議会がプロデュースするインディーズ・ムービー「MY DO」が11月16日、中之島公会堂にて公開される。本作は釜山ロケを敢行、ヒロイン・ソ・ミヨン、TOYOKI監督は原案・脚本・主演も兼務。脚本は京都在住の福井孝子、寺田町郎、TOYOKIが執筆。本作は映画に先駆けて5月19日に毎日放送ラジオ「ドラマの風」でラジオドラマとして放送された。七福神は長引く不況を打破しようとする8尊目の福の神を大阪に呼び寄せる。しかし8尊目の福の神は大阪に着くなら子供の大・エスとはわかれてしまう。エスがいなければ宝船に乗れない。福の神は韓国入りポーター・ソラを巻き込み、タイムリミットの天神祭り・本宮の火花までエスを探索を開始するというストーリー。

トピックス

松竹映画「壬生浪士伝」

松竹京都映画で撮影された松竹映画「壬生浪士伝」が東京国際映画祭でのクローキング上映に決定した。同映画祭は映画がクローキング上映されるのは今年が初めてだ。

「妖奇怪談全集」ビデオ化

小生が脚本・監督、二輪心介が主演。特殊メイクを原口哲生、編集・音響・照明などを高橋敏彦が担当した「妖奇怪談全集」全4巻の内「妖奇怪談」第一巻「怪談狂い」の巻がカップリングされ、ニコロシムよりレンタル中。続く「怪談妖人集巻一」(怪談血闘の巻)もニコロシタルの予定。尚、DVDも角川書店より発売が準備中。

高倉健、白田アキラ、水戸黄門に出演

高倉健が京都府向日市の向日市天文館で公開されている「白田アキラ」に出演した。高倉は、高倉健が出演している「白田アキラ」に出演した。高倉は、高倉健が出演している「白田アキラ」に出演した。

今月の言葉

責任編集人 山田誠二

1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデューサー、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。

先日、京都新聞より取材を受け、「妖奇怪談全集」製作以来、すっかり取材される側になってしまった感じがする。本業は文筆方面と想っているのに「監督」と紹介されたり呼ばれたりするのは、少々照れ臭い。現在、妖怪映画と怪談映画の企画が着々と進行中。昨年からずっと映像の仕事続きで、ここ二年は著書の出版もご無沙汰。気の早い話だが来年こそは滞っている小説の執筆に励まねば。

2002年11月1日 山田誠二